

【中学生の部最優秀賞】

仲間を信じる

ゆりあげ剣道教室

桑名市立陵成中学校 二年



わたなべ いちと  
渡邊 一都

僕は今まで剣道を通じていろいろな事を学びました。そのひとつが、仲間を信じる気持ちです。

今年四月に全国道場少年剣道大会の三重県予選がありました。僕は先鋒として大会に出場しました。目標は、優勝、準優勝でした。道場の去年の上級生が県で三位に入賞したので、今年はその上を目指しました。

僕は中学校でも剣道部に入っています。今回の予選大会も僕は先鋒で、勝ち進んで行くと同じ中学校剣道部でチームを組んでいる他道場の仲間と対戦することになりました。相手は一つ下の中一生です。先鋒はチームに勢いをつけるため一本を先に取りに行くことが役目です。僕は、プレッシャーに弱くどんな大会でもいつも緊張します。特にこの試合では下級生に勝たなければというプレッシャーから、体が思うように動きませんでした。

結果は相手チームに負けてしまいました。運よく敗者復活戦で何とか下位入賞で全国大会に出場できることになりました。目標には及びませんでした。夏に日本武道館の床が踏めることができずとしました。

僕は中学校の剣道部でも目標があります。目標は団体戦で全国中学剣道大会に行くこと、個人戦で東海中学剣道大会に行くことです。七月の郡市地区予選では、団体戦は優勝、個人戦では準優勝で、県大会へ出場することになりました。前にも増してチームの仲間と団結力が増し、目標に向かって集中して稽古している時期、僕は稽古中に

膝に怪我をしてしまいました。試合の当日朝まで、チームのみんなには怪我のことは黙っていました。なんとか試合に出ようとして病院で血を抜いてもらい、痛みが楽になるようにテーピングをしてもらいました。しかし、僕の歩く様子を見ていた母が、

「無理をして試合に出るのも大事かもしれないけど、動けない足で出て試合に負けてしまうのもチームに迷惑じゃないかな？」

「個人戦は自分だけの問題だけど団体戦はチームの総合力が大切で、その為に控えの子もいるのだから、控えの子に試合に出てもらった方が勝つ確率があると思うよ。」と言いました。僕も自分が出場するよりは控えの選手に出てもらった方が良いように思えてきました。

母に言われ、一緒に稽古してきた仲間を信じてみようと思いました。大会の当日、先生に試合を棄権することを伝えました。先生は、

「お前はまだ来年あるから来年またがんばれ」と言ってくれました。チームの仲間にはすまない気持ちでいっぱいでした。試合前は交代の選手に僕なりのアドバイスをしたり、試合中は祈る気持ちで一糸懸命に応援しました。結果は県大会で団体戦準優勝という成績を修めることができました。僕と交代した選手が一生懸命がんばってくれました。大会が終わって、「一都が怪我をしなくて試合に出たら、優勝していたかも知れんなあ」と仲間に向かってもらえた時、大事な時期に怪我をしてしまい、先生や仲間にも本当に申し訳ない気持ちになりました。怪我をしたにも関わらず周りからやさしい言葉をかけてもらい、改めて仲間の存在に気が付きました。

怪我をして良いわけではないけれど、怪我のおかげで試合に出ないと決める勇気と仲間を信じる大切さがわかりました。道場のチームも中学校剣道部のチームも三年生が引退して新メンバーに代わります。時には市内の道場の合同チームで大会に出場することもあります。たとえどのチームで大会に出場しても、チームの仲間を信じ、チームの仲間から信頼される選手になれるように、日々努力をしたと思います。